



神戸市会議員



岡田ゆうじ



自由民主党神戸市会議員団市政報告

2023. 1

No.44

コロナの克服

新年、明けましておめでとうございます。健やかに豊かな新春をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、はや3年になります。オミクロン株など変異株が感染の主体となるにつれ、感染者の数も爆発的に増え、昨今ではコロナ感染症の症状が治まった後の、「コロナ後遺症」に苦しむ患者の皆様への対処が求められるようになってきました。

後遺症問題で国は後手に回っており、「まずはかかりつけ医に相談し、必要に応じてコロナ感染症の専門病院に紹介を受けること」を基本方針としていますが、かかりつけ＝プライマリケアの現場では混乱も生じており、後遺症に悩む患者が十分な対処を受けられないケースも増えています。

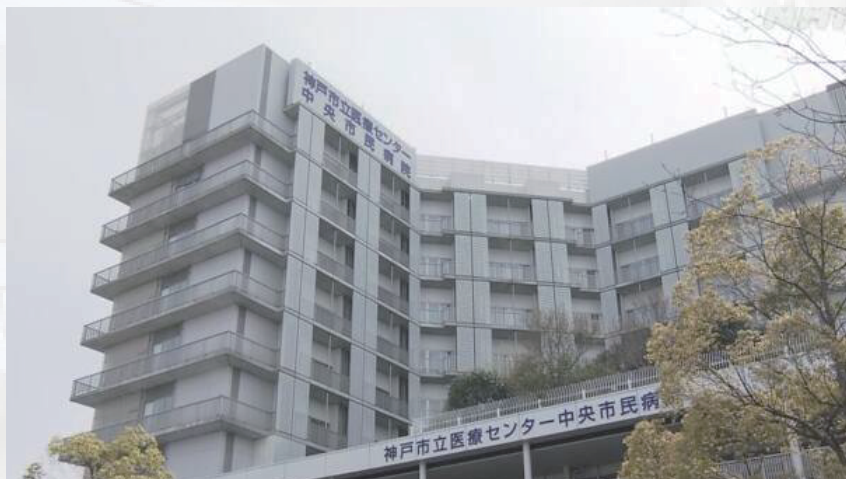
私は議会で何度も繰り返し、東京都や広島県のような「『コロナ後遺症』連携病院」を設置し、後遺症に悩む市民が専門ダイヤルに直接相談したら、後遺症連携病院に紹介される制度を創設するよう申し入れてきました。

その結果 2023年1月当初予定で、神戸市にもコロナ後遺症連携病院が設置され、

後遺症に特化した診療等が行われることになりました。

コロナの感染症のみならず、後遺症でも苦しんでおられる市民の方に少しでも寄り添い、一助となる施策が一刻も早く展開できるよう、今後も鋭意取り組んで参ります。

お困りのことなどございましたら、ご意見等をお寄せ下さい。



コロナ専門病棟を擁する中央市民病院

「『コロナ後遺症』連携病院」について

○分化員 (岡田ゆうじ) (コロナ) 後遺症の具体的な症状の高まりが出てくる中で、地域のかかりつけ医で対応できないケースが多い。

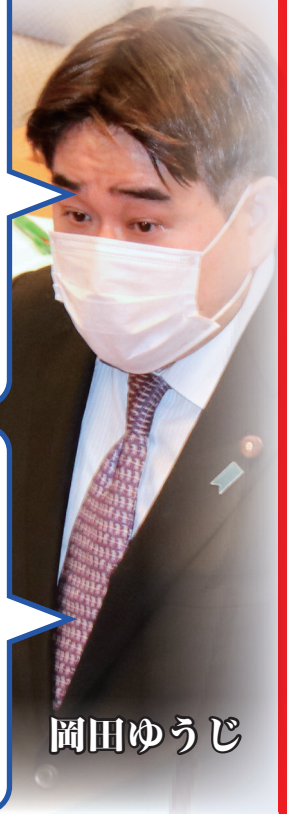
例えば広島県の場合、県のほうで指定した「後遺症連携病院」、要は後遺症を専門的に扱っているとライセンスされた専門病院に御相談ください、というスキームになっている。このように、個別のクリニックレベルでは対応できない後遺症問題を、知見を集めてコロナ後遺症連携病院に集約しているところが、32の都道府県・政令市・中核市においてある。この32の中に神戸市は入っておらないわけだが、検討を始めてほしい。

(2022年9月28日神戸市会決算特別委員会)

○委員 (岡田ゆうじ) コロナの後遺症の対策について、例えば広島県ではコロナ後遺症連携病院というものを指定しており、東京都でも「ここだったらコロナの後遺症の治療が受けられます」「ここに行ったら安心です」というのをリストアップして公開している。

神戸市も(コロナ後遺症専門ダイヤルの)窓口は設けていただいているが、やはり「もう自分はコロナ後遺症だ」という自覚がある患者については、コロナの後遺症の専門病院なり連携病院なりが対処していただきたい。

(2022年12月23日神戸市会外郭団体特別委員会)



岡田ゆうじ

○花田健康局長 先生から御案内あったように、今神戸市では令和3年の11月から後遺症の相談ダイヤルを設置し、そこに電話をかけてこられた後遺症の方に対して状況を看護師が聞き取って、実際にその症状に対応できる医療機関を御案内して対応していつている。

来年のできるだけ早い時期にはご指摘の連携病院についても設置をさせていただいて、今以上に後遺症の方が安心して生活を送ることができるように努めていきたい。

(2022年12月23日神戸市会外郭団体特別委員会)



花田裕之
健康局長

実現 「コロナ後遺症連携病院」の設置



時期：2023年1月当初(予定)

内容：コロナ後遺症としての対処が必要と判断された患者により専門的な診療を提供する専門病院の設置

